

第 30 回 北海道新篠津高等養護学校

卒業証書授与式 式辞

北海道新篠津高等養護学校「第 30 期生」の皆さん、ただいま、私から皆さんへ社会人へのパスポートであります卒業証書を授与いたしました。御卒業、おめでとうございます。

春の足音が聞こえる今日の佳き日に、新篠津村 村長 石 塚 隆 様 を初めとしまして、御来賓の皆様の御臨席を賜り、「第 30 回卒業証書授与式」を挙行できますことを心から感謝申し上げます。

そして、今日の日を迎えるにあたり、お子様を陰に日向にと支えていただきました保護者の皆様には、お慶びも一入（ひとしお）のことと御拝察申し上げます。お子様の御卒業、誠にありがとうございます。

さて、卒業生の皆さんにとって、高校生活の 3 年間の感じ方はそれぞれだと思いますが、卒業アルバムを見ると、どの顔も高校生活の 3 年間で大人になったことは確かだと思います。

私は、皆さんが 2 年生の時に、東京方面の見学旅行を引率しました。中学校時代からはじまったコロナ禍のため、旅行・宿泊的行事も制約を受けていましたので、大変心待ちにしていたと思います。なかには、初めての飛行機搭乗での保安検査に緊張した人もいました。

鎌倉の大仏や鶴岡八幡宮の見学では、鎌倉時代の建造物を思わず見上げてしまいました。自主研修では渋谷・原宿、東京スカイツリー、浅草寺、秋葉原などをめぐり、日本の首都である東京の大きさにびっくりしたことでしょう。なにより、東京ディズニーランドは、本当に夢の国のように楽しいところでした。ぜひ、社会人となりましたら、働いたお金で、また旅行ができるとういと思います。

皆さんの学校祭での学年発表は、毎回、お客様を楽しませてくれました。3年生のときには「ザ・日本の心 ～今ここに生きる～」をテーマに、他者との意見が違ってても価値観が異なっても、「30期生、32名」の一人一人が、今ここに生きていることを表現しました。日本の伝統芸能・文化を多様に取り入れて表現し、太鼓の音や音楽、そして踊りが観ているお客様の全身に響き渡るような圧巻のパフォーマンスは、仲間と作り上げ、やり遂げた達成感で満たされました。

先週、皆さんが学級ごとに校長室へ訪れたとき、私は卒業証書授与式当日、先輩の立派な姿を後輩の目標となるように見せてあげてほしいとお願いしましたが、3年間を振り返ると後輩へ贈る先輩としての良い姿が、いろいろと思い出されます。今、この式に臨んでいる皆さんの後ろ姿も、後輩からは確かな目標として映っていることでしょう。ありがとうございます。

ところで、新篠津高等養護学校の3年間の学習は、社会で「生活する力」、「働く力」を身に付けることを重点としていますが、最も大切にしているのが現場実習です。3年間の現場実習では、社会の厳しさと周りの人からの支えを感じたのではないのでしょうか。

1年生のときは、先生方の引率による体験実習でしたが、2年生では一人で事業所に行く単独体験実習の方が多くなりました。3年生では進路希望先で、いわゆる就職試験の意味付けとなる前提現場実習を行いました。学校内での学習と違い、年齢の離れた方々へ気遣いをしながら仕事をしたり、突然、お客様に話しかけられ困ってしまったりなど想定外のこともあったと思います。そのようなときに、担任の先生が巡回に行くと安心したのではないのでしょうか。また、実習先の皆さんに仕事をはじめとして、いろいろなことを気遣っていただいたことにも、安心したのではないのでしょうか。

決して成功したことだけではなく、失敗したこともありますが、各学年の実習体験を積み重ねるごとに、今振り返ると社会人への階段を一步ずつ昇っていたことがわかると思います。

いよいよ、4月1日からは社会人となります。民法という法律に基づきまして、令和4年4月1

日からは成人年齢が20歳から18歳へと変わりました。卒業後は学校の生徒としてではなく、社会人並びに成人という役割をしっかりと自覚してください。

社会人並びに成人としての自覚について考えるときには、引き続き本校の校訓「すすんでやりぬく人」を心がけると良いでしょう。そのような積極的な姿勢、根気よく取り組む姿勢で生活をしたり、働いたりすることで、周りの皆さんから信頼を得て協働することに確実につながります。それは、地域社会の一員として、働くことを中心とした質の高い生活や人生を過ごすことにもつながります。

最後になりましたが、保護者の皆様並びに新篠津村の皆様、そして現場実習先の事業所など地域関係者の皆様には、本校の教育活動につきまして格別の御理解と御協力を賜りましたことを、教職員を代表して厚くお礼を申し上げます。そして共にお子様を、生徒を支えていただき、このように素晴らしい若人を育てたことを、心より感謝しております。

結びに、希望に満ちた旅立ちの日に当たり、卒業生の皆さんが「豊かな心と つよい体をもってたくましく自立」し、自分らしく社会に貢献しながら、未来を生きることを心より祈念いたしまして、式辞といたします。

令和7年3月7日

北海道新篠津高等養護学校

校長 立 田 俊 治